治　水　事　業

〈全国有数の清流が育む地域の産業と暮らしを守る治水対策を推進〉

後志利別川は、その源を今金町の長万部岳に発し、せたな町において日本海に注ぐ、幹川流路延長80km、流域面積720㎢の道南で唯一の一級河川です。自然環境が豊かな清流河川として有名で、全国一級河川の水質現況調査結果では幾度も「水質が最も良好な河川」に選出されています。後志利別川流域に位置する平成３年に完成した美利河ダムは、複合型ダムとしては日本一の堤頂長1,480mを誇ります。流域の洪水被害を軽減するための洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用水の補給及び水力発電を目的とした多目的ダムです。また、海域からダム上流域の河川への連続性を確保するため、平成17年に美利河ダムに2,400mの魚道を整備しました。

第9期北海道総合開発計画における生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくりを目的に、気候変動の影響により激甚化・頻発化する風水害等に対応するため、「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策」の推進や、流域のあらゆる関係者が協働して取り組む流域治水を更に加速化・深化させるために取りまとめた「後志利別川水系流域治水プロジェクト2.0」に基づき、ハード・ソフト一体の事前防災対策を推進します。

また、川の自然環境や景観、水辺の活動、サイクリング環境等、川に関する情報を効果的に発信するとともに、地域と連携して、魅力的な水辺空間の創出、水辺利活用を促進し、北海道らしい地域づくり・観光振興に貢献する「かわたびほっかいどう」プロジェクトを推進します。

「流域治水」の施策のイメージ

川へ行こう！　川を楽しもう！
かわたび
ぼっかいどう
KAWATABI HOKKAIDO

1　河川事業

令和５年３月に変更した後志利別川河川整備計画に基づき、河道掘削や堤防整備等のハード対策を行うとともに、住民等が迅速に避難できるよう河川情報や河川監視機器の充実を図り、それらの情報提供等のソフト対策を行います。

また、堤防や樋門など河川管理施設の機能を維持するため、堤防除草や河川管理施設の点検整備、河川巡視等を行います。

河川事業（河道掘削）

2　ダム管理

美利河ダムでは、利水の安定供給や洪水時のダム機能を確保するため、ダム施設の点検整備・更新、観測・操作及び流木処理等を行うとともに、魚道の延伸整備の実施に向けて、引き続き魚類調査や魚道内の魚類分布調査を行います。

ダム管理（美利河ダム）

治水事業の概要

事業別		地区別等	事業の概要
河川整備事業	河　川　改　修	後志利別川	河道掘削、堤防整備　等
	河川維持修繕	後志利別川	堤防・水閘門等維持管理、河川巡視　等
	堰　堤　維　持	美利河ダム	ダム管理施設の維持管理・修繕　等

災害対応への取組

■ TEC－FORCE（緊急災害対策派遣隊）

リエゾン

重大な被害が発生し、又は発生のおそれがある場合に自治体等に職員を派遣し、災害情報や支援要望等の情報収集、災害情報の提供、TEC-FORCEや災害対策用機械等の支援に関する連絡調整を行います。

被災地状況調査等

大規模な自然災害に際して、被災地の早期復旧のための技術的支援（被災地状況調査、排水作業・給水支援・道路清掃作業に必要な機械の派遣）など、被災自治体の支援を実施します。

令和２年７月の九州豪雨や令和６年１月に発生した能登半島地震には被災状況調査のため、TEC-FORCE隊員を派遣するなど、北海道開発局が一丸となって被災地域の1日も早い復旧活動を支援しています。

令和２年　九州豪雨：現地被災調査（熊本県）

令和４年　1日防災学校（厚沢部小学校）

■ 災害対策訓練、啓蒙活動

函館開発建設部では、災害発生時に迅速な対応を可能とするため、関係機関や自治体と連携した各種災害対策訓練を実施します。また、教育機関等に出向き、防災に関する啓蒙活動を実施します。

■ 災害対策用機械

北海道開発局では各種災害対策用機械を保有し、災害発生時には速やかに出動させ、被害の軽減を図ります。

なお、函館開発建設部では6台の災害対策用機械を保有しています。

- 衛星通信車　　１台（函館開発建設部）
- 排水ポンプ車　　２台（函館開発建設部）
- 照明車　　２台（函館開発建設部）
- 待機支援車　　１台（函館開発建設部）

令和４年８月　後志利別川出水対応